

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	こうのすケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	平成26年7月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成27年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●毎月の外出レクリエーションで四季折々の花の鑑賞や、地域の催し、カラオケなどへ出かけています。●散歩や買い物で地域とのかかわりを図っています。●季節を感じて頂ける様なイベント行事で気分転換を図っています。●毎日の食事作りのほか、誕生日会やフードセラピーで料理やおやつ作りも楽しんでいただいています●家族会でお鍋や焼肉、遠足などを行ない、ご家族様にも楽しんで頂いています。●身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会主催の勉強会などで身体拘束廃止の意識を高めています。●防災面では地域の方も参加しての避難訓練等を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・家族会の協力で遠足が行われたり、事業所の避難訓練への参加や、運営推進会議では忌憚のない意見・提案がなされるなど、家族との信頼関係に根差した事業所運営が行われている。また、社内ではリーダー教育の一環として中堅職員を運営推進会議に参加させ、会社全体の取り組みを理解してもらうなど、レベルアップにも努められている。
 ・ご家族のアンケートでも、「家族会に参加したが、家族の方々がそれぞれに遠慮なく意見を述べている(良い点ばかりでなく)それだけ職員への信頼があると私は思う」、「本人の出来る事はやらせてもらえ、穏やかに生活しているので安心していられます」などのコメントが寄せられ、利用者・家族への細やかな対応に高い評価が得られている。
 ・目標達成計画の達成状況については、災害発生時の地域との連携強化に取り組み、自治会の防災班が訓練に参加くださったことにより、事業所への理解と協力体制が整えられたこと、さらに、外出支援の様子を家族に理解いただくことにも取り組み、家族の協力で一緒に外出する機会が多くなったことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で生活。安心・安全な環境」を理念に掲げ、安心・安全な環境整備に努め、利用者を第一に考え、利用者の希望を伺い、かなえることで住み慣れた地域で笑顔の絶えない生活を送れるよう支援している。	理念を基に、今月は「立ち止まって笑顔で挨拶」を月間目標に掲げ、理念に基づいたケアが実践されている。また、事業所内研修で言葉使いや身だしなみなどが確認され、日替わりの強化担当職員を配置するなど取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会にも加入し祭りや運動会、敬老会などに参加するなど積極的に地域との交流を図り地域の一人としての役割を担っている。	散歩や買い物などを通して、近隣とのつきあいが図られ、花をいただくなど地域にも受け入れられている。また、長く来所されているボランティアの方との交流や中学生の職場体験を受け入れるなどの取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流を図りながら、認知症の理解や支援の方法を地域の人に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第四金曜日に定期的開催し、情報交換や助言を頂いている。また、運営推進会議での意見は職員全員が周知徹底するように心がけている。	運営推進会議では防災訓練、利用者の健康について、またイベントの実施報告など、利用者身近な話題を取り上げ、話し合いが行われている。また、市担当者や民生委員も参加されることで、地域や行政の情報を知る機会としても役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密にとり、事業所の実情や取り組みを報告し助言をいただいている。また、市主催の事業所連絡協議会やグループホーム連絡会に参加し、地域や同業他社の情報も得ている。	市担当者には運営推進会議に参加をいただき、市の催しやイベント情報などの共有が図られている。また、市内の他事業所との連携も市を仲介に進められ、事業所の運営にも反映されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員が中心となりアンケート調査を実施したり、強化月間を設けて職員の意識を高めている。また、利用者が外出するときは付き添い、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	言葉使いや接遇など、毎日の強化担当職員を中心に、「第三者が見たらどうなのか」をポイントにチェック指導が行われ、職員の意識が高められている。さらに、「自分の言葉は、対応は大丈夫か」などを常に省みて、改善していく取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員主催の勉強会を実施し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について社内、社外の研修や勉強会などで知識を身につけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際には丁寧な説明を心がけ、納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話や面会時、運営推進会議、家族会、意見箱等で利用者や家族からの要望を伺い、希望を叶えるための企画や調整を行い、実施に結び付けている。	家族との信頼関係が築かれ、家族会や普段の面会の時などに、遠慮のない意見・要望が出され、事業所のサービスの向上につながられている。利用者とは日頃から、誕生会の希望を聴いたり、新聞誌上の話題などを話し合うなど、コミュニケーションが図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会の活動により意見を取り入れ業務改善・ケアの質の改善につなげられるようにしている。また、ミーティングでも積極的に業務の改善につながるような話し合いをし意見を反映させている。	委員会活動が習慣化され、それぞれの職員から業務の見直しやケアの改善意見が出され、業務の統一が図られている。職員は「言わなければ伝わらない」と考え、管理者も職員との距離を縮めて、話し合いができる環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行ない取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を積極的に受講している。毎月の定例勉強会の他、本社主催の研修、エリア内の意見交換会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のグループホーム協議会に参加し、地域6ヶ所のグループホームと交流を図ったりしている。また、エリア内の協議会にも参加しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談のあった時は、必ずご本人に会い心身の状況やご本人の思い、不安に思っている事を伺い、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を理解し、家族が困っている事や不安に思っている事などをゆっくり伺い、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談には、可能な限り十何な対応をし、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、職員と利用者の信頼関係が築ける様、努めている。普段から、利用者様から教えて頂くことが多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の様子や思い、職員の考えを細かく伝えていくことで、支援の方向性を一致させ、協力してご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や親せきが訪ねてきたり、併設のデイサービス利用の知人との交流を支援したり、今まで行なってきた手芸・フラワーアレンジ、陶芸などの講座も継続できるよう支援している。	デイサービスでやっていた陶芸教室に入居後も通い、ケアプランにも盛り込まれ、馴染みの関係が継続されている。また、年賀状を事業所で準備したり、利用者を買ってきたりし、友人や親せきに書いて投函されるなどへの支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族や他の事業所の相談にのって支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の意向を聞いたり、言葉や表情、行動などから利用者の思いを汲み取り、意向の把握に努め実施に結び付けている。	「カラオケBOXで歌いたい」などの思いに応えたり、帰宅願望や日常生活の不安などにも気を配られている。また、家族が集まり、利用者と一緒に食事をする場所を提供するなどの支援も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用を開始する際にご本人、家族から聞き取る他、利用後ご本人、家族とのコミュニケーションの中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況などをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、言動や小さな変化を見逃さないよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状を踏まえ、本人、家族と話し合い、カンファレンスやミーティングを行って利用者の現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに基づいた「介護援助計画表」が現場レベルで作成され、より実践的なサービスが行われている。家族とは、日頃から利用者の状態を話し合うよう努められ、プラン内容の説明と同意確認がスムーズになされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排せつなどの身体状況、その日の様子や言動などを個々のファイルに記録し、介護計画に沿った援助を心がけている。また、個々の記録から介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応している。また、医学的処置が必要なケースでは往診のドクターやナースに支持を仰いだり、施設内のナースの協力を得て柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカのボランティアが来訪したり、防災訓練に地域住民や地域の消防団が参加するなど、安全で楽しく暮らせる支援をしている。また、運営推進会議などで民生委員との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は家族の協力を得ながら支援を行ない、家族が現状を説明できない場合は一緒に受診に同行したりして医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。	通院に家族が同行される場合は、食事や排泄の状況、日々の体調などを一表にして持参され、説明が難しい時は職員も同行されている。医師からの指示や家族からの報告は、介護日誌に記載され、情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職員に相談し、利用者の健康管理、状況に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、職員がお見舞いに向うなどして安心して頂けるよう支援している。ソーシャルワーカー、ご家族と情報交換しながら回復状況など速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について本人、ご家族、かかりつけ医と話し合いを行い、状況の変化に応じた支援を行なっている。職員間で利用者の状況を共有しチームでの支援に取り組んでいる。	緊急時の管理者への連絡を含めた指示系統がきちんと整備されている。重度化された利用者には、居室での過ごし方や具体的なケア方法について家族と密に連絡を取り合い、医療支援も受けながら対応された事例も見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講したり、定期的に応急手当や初期対応の訓練を勉強会で学び合うことで実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者、家族、近隣住民、消防署等の協力を得て、定期的にあらゆる災害に備えて様々な避難訓練を実施している。	自治会の防災班のメンバーが事業所の訓練に参加され、様々な災害発生を想定した指導が行われている。また、災害対策の年間計画も作成され、職員への周知を行うとともに、自治会にも配布されている。	地域との協力体制作りも進んでおり、今後、予想される利用者の重度化や職員の入れ替わりなどから発生する新たな課題の解決に取り組まれ、災害対策をより進化させる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。会社全体で全職員がプライバシーに対しての意識を高める取り組みをしている。	会社として、「Pマーク」取得に基づいた高いレベルでの研修が行われ、プライバシーの確保につなげられている。また、外出時には「おしゃれをして行きましょう」と洋服を選んでいただくなど、一人ひとりの意志の尊重にも取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情で読み取れるよう配慮したり利用者に合わせた声掛けを心がけ、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、一人一人のペースを大切に、体調や気持ちに配慮して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり、家族が来所された際に好みを伺ったりしながらおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事、後片付けまで利用者と職員と一緒にやっている。毎日のセレクトメニューの他、鍋フェア、かき氷フェア、美食祭り、パイキング、おやつ作りなども楽しんで頂いている。	地域の旬の食材を使った美食まつりや、昼食にセレクトメニューを取り入れるなど、利用者には食べる喜びと選ぶ楽しさを味わっていただいている。また、弁当を買ってきて、近くにピクニックに出かけるなど、目先を変えた支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録し、職員が共有して一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人に応じた見守りや援助を行っている。就寝前には口腔ケア後、義歯洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を使用して一人一人の排泄パターン、習慣などを把握してトイレ誘導をしながら自立支援を行っている。	リズムをつかみ早目の声かけを行うことで、失敗が減った事例も見られるなど、自立に向けた様々な工夫や取り組みがなされている。例えば、水分量の確保や果物や乳酸飲料、繊維質の食物を取り入れ、自然な排泄ができるよう支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くする食物や食材の調理に工夫をしている。また、運動への働きかけで自然排便できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外の毎日、午後4時から行っているが、希望やタイミングにあわせた調整で清潔保持につとめている。また、季節により柚子湯、しょうぶ湯を楽しんで頂いている。	夕食前に全員が入浴することにこだわり、仲の良い同士が声かけあって、一緒に楽しんでいる。浴室や脱衣場の暖房、湯船の湯量などにも気を配り、安全に安心して入浴いただけるよう支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え、夜は良眠できるよう支援している。また、夜、寝付けない時は温かい飲み物を飲みながらおしゃべりしたりして気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて処方箋を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は職員間で確認し合い、服薬後もきちんと内服できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かして仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。また、季節の外出先や、イベントの企画を利用者に相談しながら楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他、食材や日用品の買い物に車で出掛けるなど利用者の意向や能力に合わせた外出支援を行なっている。また、家族会で遠足を企画するなどして、家族と一緒に出掛けられるよう支援している。	弁当持参の花見、カオケ、むさしの村への遠足など、多種多様な外出支援がなされ、利用者・家族から好評を得られている。また、日常的には玄関や庭先に出て、外気浴を楽しまれるなど、利用者の状態に合わせた取り組みがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じて家族の協力を得て所持したり、使えるよう支援する他、外出レクの一環として買い物ツアーを企画し、本人が好きな物を選び、ご自分で支払うなどの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は事務所で話せるようになっていた。また、年賀状や手紙を出すための支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心する家庭的な安らぎを演出し、家庭での音・匂いなど生活を感じる環境作りを大切にしている。また、季節ごとの掲示物で季節を感じていただいたり季節の食材を使ったおやつ作りをしたりしている。	利用者同士が助け合って、季節感や生活感が感じられる居心地の良い空間作りがなされ、それぞれの居場所も確保されている。植木の花に水をあげ、お世話する利用者もおられ、思い思いのペースで生活が送られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや、フロア内のソファ、畳などで自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでのライフスタイルを変えないよう、利用者一人一人の好みや馴染の物を活かして心地よく過ごせるよう工夫している。	各居室の布団のたたみ方の統一や家具の配置などには安全に配慮した環境作りが行われている。カーテンもそれぞれの好みに合わせた物が使われ、これまでの生活や習慣に合わせた居室作りへの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全の確保と自立への配慮をしている。		

(別紙4(2))

事業所名:このすケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日:平成 27年 3月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今まで作りあげてきた非常災害時の地域との協力体制が、職員、地域役員等の入れ替わりで滞ってしまう可能性がある。	職員の入れ替わりや、利用者の変化があっても地域との協力体制を継続したい。	施設内の防災委員を中心に年間計画に沿った訓練を実施し、誰もが対応できる体制作りを構築する。	12ヶ月
2					12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。